

大阪港

3年連続200万^T_U超へ

コンテナ取扱量 輸出入とも好調

【関西】大阪港のコンテナ取り扱いが堅調だ。同港は2017、18年と2年連続で年間取扱量が輸出入合計で200万TEUを上回り復調傾向にあるが、19年は1-9月累計で前年同期を上回るペースで推移している。米中間の貿易を巡るあつれきが長期化するなど、向かい風にある輸出もプラス基調を維持しており、3年連続の200万TEU超えも視界に入る。

大阪市港務局のまとめでは、1-9月累計のコンテナ取扱量は輸出入合計で前年同期比4%増の158万6000TEU。メインの輸入が2%増の86万9000TEUと堅調に推移、輸出は空コンテナ扱いが増え5%増の71万7000TEUとなった。

大阪市の港務局のまとめでは、1-9月累計のコンテナ取扱量は輸出入合計で前年同期比4%増の158万6000TEU。メインの輸入が2%増の86万9000TEUと堅調に推移、輸出は空コンテナ扱いが増え5%増の71万7000TEUとなった。

また、米中間の貿易を巡るあつれきの長期化の余波で、大阪からの輸出貨物となる中国や韓国向けの素材や機械類の荷動きは、荷動きは4-8月

にも影響が及んでいるという。実入り輸出に限れば、荷動きは4-8月

と5カ月連続で前年同月割れとなった。それでもサミット明けの7月以降、実入り貨物の輸入が回復し3カ月連続増となったほか、実入り輸出も9月は2割近く増え6カ月ぶりにプラスに転じた。ただし昨年9月は台風21号が関西を直撃しており、その反動もある。

大阪港のコンテナ取扱量は13年に過去最高の219万3000TEUを記録したが、15年、16年は減少傾向にあった。